

研究班番号【 52 】  
応急手当の理解度と技術力を向上させるには～保健室の利用状況に着目して～

保健班:桂川結菜、増本美悠

### Abstract

The purpose of this study is revealing that the most efficient way to learn first aid. The experiment shows that there is a correlation between frequency of nurse's office use and first aid knowledge, and that practical learning improves first aid comprehension and technical skills. Therefore, this study concludes that practical learning is effective in improving the understanding of first aid, and that learning first aid in the nurse's office improves the understanding and skills of first aid.

### 要約

本研究の目的は、応急手当の最も効率的な学習方法を明らかにすることである。調査によつて、保健室の利用頻度と応急手当の知識には相関関係があり、実践的な学習をすることで応急手当の理解度と技術力が向上することがわかった。従って本研究では、応急手当の理解度を上げるのに実践的な学習が効果的であり、保健室を利用し応急手当の学習をすることで理解度と技術力が向上するということが結論付けられた。

### 1. はじめに

生きていこうえで応急手当は必要なものだが正しい方法を知らない人は多いと考えた。そのため効率的な学習方法を調査し保健の授業に生かすことで自分の身を守ることにつなげたい。先行研究から医療職の養成を目的とする大学では、救急医療に関する科目を設置し実演や実習を中心とした教育を行うことが必要だということ、保健室利用時が応急手当の指導の機会が最も多いことがわかった。またスポーツでは実際に練習することが最も効果的であることがわかった。このことから保健室の利用頻度が高ければ応急手当の知識力と技術力は向上すると考えた。本研究での応急手当とは屋外での運動中や、不慮の事故で起った出血への対応や病気による発作への対応といった日常的な応急手当のことで心肺蘇生は含まないこととする。

### 2. 研究手法

高津生に応急手当の知識テストと実技テストを実施して理解度と技術力を調査し、保健室を利用していた頻度と理解度、技術力の関係から応急手当の最も効率的な学習方法を考察する。

#### 《実験1》

- ①高津生11人に応急手当の知識を問う知識テストと実技テストを行う。
- ②応急手当について紙の教材、動画、実践に分かれて学習してもらう。
- ③4週間後同じ知識テストを行う。

#### 《実験2》

- ①高津高校の1、2年生に知識テストを行う。
- ②保健室の利用頻度やけがなどの経験の有無についてアンケートに答えてもらう。

### 3. 結果

#### 『実験1』

実技テストの結果、全員が知識テストと比べて点数が下降した。最も正答率が下がったのは擦り傷、刺し傷、切り傷をした時の手当の方法であった。4週間後知識テストの点数は、平均で紙の教材で学習した時が4.3点、動画で学習した時が3点、実践的な学習をした時が4.5点上がった。最も正答率が上昇したのは実践的な学習をした時だったが、紙の教材で学習した時と点数の上昇率はあまり変わらなかった。

#### 『実験2』

最も正答率が高かったのは擦り傷、刺し傷、切り傷をした時の手当で91.3%、最も正答率が低かったのは蜂に刺されたときの手当で11.8%であった。全員が擦り傷、刺し傷、切り傷を経験していた。

### 4. 考察

知識テストに比べて実技テストの点数が低かったことから、知識があっても実際に応急手当ができる生徒は少ないことが分かった。経験したことのある応急手当については知識テストの正答率が高かったことから、経験の有無が応急手当の知識に関係することが分かった。保健室の利用頻度が平均以上の生徒は利用頻度が低い生徒より知識テストの平均を超えていた割合が高かったことから、保健室の利用頻度と応急手当の知識には相関関係があるといえる。また、実践的な学習をした時が知識テストの点数が最も上昇したことから、実践的な学習をすることで理解度が向上することが分かった。

### 5. 結論

応急手当の理解度を上げるのに実践的な学習が効果的であることが分かった。保健室の利用頻度と応急手当の知識には相関関係があるといえるが、予想していたほど大きな相関性はなかった。けがや体調不良以外でも保健室を利用し応急手当の学習をすることで理解度と技術力が向上すると考えられる。

### 6. 参考文献ならびに参考Webページ

矢野潔子(2017)「大学生の応急手当に関する学習状況および理解度について」

令和3年度高津高校LC2 保健班「イメージトレーニングによるスポーツの競技能力の向上」

一般社団法人茨城県医師会「応急手当ハンドブック」

総務省消防庁「一般市民向け 応急手当WEB講習」